

免疫アレルギー疾患研究10か年戦略(案)の ポイントについて

平成30年9月28日



厚生労働省 健康局 がん・疾病対策課

アレルギー疾患患者の動向

我が国全人口の約3人に1人が何らかのアレルギー疾患に罹患していることを示している。

出典：リウマチ・アレルギー対策委員会報告書（平成17年）

【喘息】

過去30年間で、小児の喘息は1%から5%に、成人の喘息は1%から3%に増加し、約400万人が罹患していると考えられる。

【花粉によるアレルギー性鼻炎】

1998年のアレルギー性鼻炎有病率は、29.8%であった。（鼻アレルギー診療ガイドライン2016）

【アトピー性皮膚炎】

全国調査によると、4か月児；12.8%、1歳半児；9.8%、3歳児；13.2%、小学1年生；11.8%、小学6年生；10.6%、大学生；8.2%だった。（H12-14：厚労科研）

【食物アレルギー】

乳児が10%、3歳児が4～5%、学童期が2～3%、成人が1～2%だった。（H15年～17年調査）



【喘息】

平成20年有症率は、幼稚園児で19.9%、6～7歳13.8%、13～14歳で8.3%だった。国民全体で約800万人が罹患していると考えられる。ただし、喘息死は減少。



【花粉を含むアレルギー性鼻炎】

2008年のアレルギー性鼻炎有病率は、39.4%であった。（鼻アレルギー診療ガイドライン2016）



【アトピー性皮膚炎】

4か月から6歳では12%前後、20～30歳代で9%前後の頻度で認めることが明らかとなった（アトピー性皮膚炎治療ガイドライン2008）



【食物アレルギー】

乳幼児は16.5%（全都調査）、学童期は4.6%（全国調査）。成人は不明。（食物アレルギー診療ガイドライン2016）。

我が国全人口の約2人に1人が何らかのアレルギー疾患に罹患していることを示しており、急速に増加している。

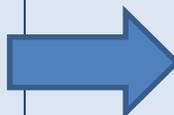
出典：リウマチ・アレルギー対策委員会報告書（平成23年）

アレルギー疾患対策における本研究10か年戦略(案)の位置づけ

アレルギー疾患対策基本法(平成26年6月公布) アレルギー疾患対策の推進に関する基本的な指針(平成29年3月告示)

(基本法における基本的施策)

- ・重症化の予防及び症状の軽減
- ・均てん化の促進等
- ・生活の質の維持向上
- ・研究の推進等



(基本指針における基本理念)

- ・生活の仕方や生活環境の改善
- ・医療の質の向上及び医療提供体制の整備
- ・生活の質の維持向上のための支援体制整備
- ・研究の推進とその成果の普及・活用・発展

免疫アレルギー疾患に対して、安心して生活できる社会の構築

医療の均てん化

医療提供体制の構築

発症予防・重症化予防及び症状の軽減

予防法・標準治療の進歩・普及

新規医薬品・医療機器の普及

生活の質の維持向上

疾患実態等の「見える化」

行政、学会、国民等による推進

国内外の産学官民連携に基づく研究10か年戦略の実践

アレルギー疾患医療提供体制に関する在り方検討会報告書
(平成29年7月発出)

戦略1
(本態解明)

戦略2
(社会の構築)

戦略3
(疾患特性)

免疫アレルギー疾患研究10か年戦略(案)

免疫アレルギー疾患研究10か年戦略(案) の全体像

免疫アレルギー疾患が有する特徴

- ・多くは慢性の経過をたどり、改善や悪化を繰り返すことがあるために、長期にわたり生活の質を著しく損なう
- ・アナフィラキシーや一部の薬剤アレルギーなど、突然の増悪により、致命的な転機をたどる場合もある

10年後に目指すべきビジョン

産学官民の連携に基づいて、免疫アレルギー疾患に対して「発症予防・重症化予防によるQOL改善」と「防ぎ得る死の根絶」のために、「疾患活動性の見える化」や「層別化医療及び予防的・先制的治療の実現等に資する医薬品や医療機器の研究開発」を通じて、ライフステージに応じて、安心して生活できる社会を構築する



ビジョンの実現に必要なとされる3つの目標と戦略

目標1

「革新的な医療技術に基づく層別化医療及び予防的・先制的治療」の実現等に向けて、基盤となる基礎研究・疫学研究・臨床研究を推進することで、免疫アレルギー疾患の根源的な本態解明を行い、患者数減少とQOL改善を目指す

目標2

国民一人一人の貢献を重要視し、国内外の産学官民のあらゆる力を結集して国際的な研究開発を進められる仕組み作りを行い、かつ患者を含む国民が参画する研究成果の社会への効果的な還元を目指す

目標3

ライフステージ等の医療の最適化や、一部の重症免疫アレルギー疾患における「防ぎ得る死」をゼロにするために、各疾患の特性に基づく予防法や治療法を、広く社会に普及させることを目指す



戦略1: 本態解明

先制的治療等を目指す免疫アレルギーの本態解明に関する基盤研究

戦略2: 社会の構築

免疫アレルギー研究の効果的な推進と社会の構築に関する横断研究

戦略3: 疾患特性

ライフステージ等免疫アレルギー疾患の特性に注目した重点研究